



# 中国西南民族史

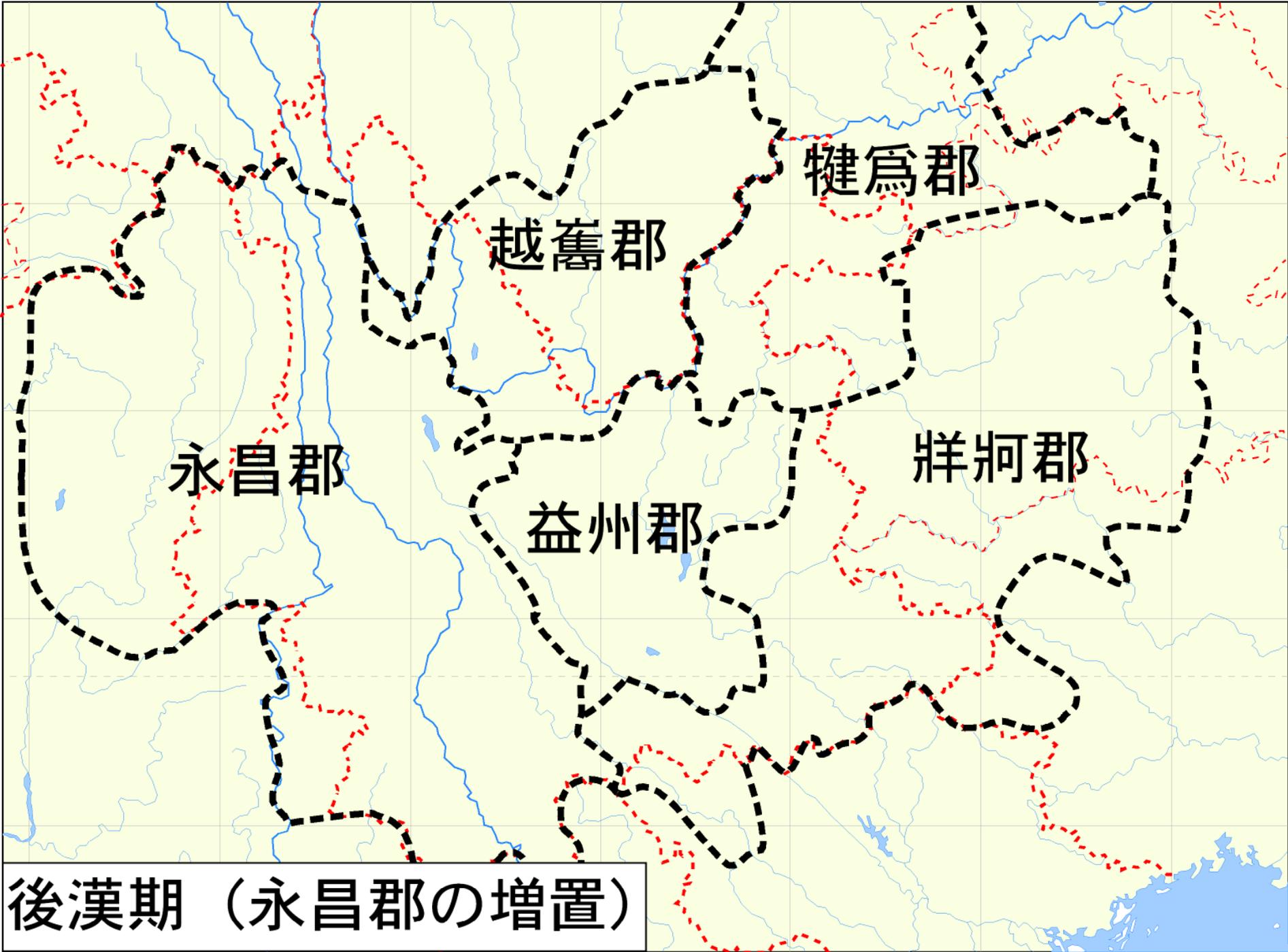
---

## 2. 秦漢～魏晉南朝： 西南夷の「発見」と南中社会の成立③



# 永昌郡の設置

- 後漢明帝期:永昌郡設置(AD69) (史料2.4)  
→中原王朝勢力の雲南西部への進出
- 『後漢書』西南夷伝の哀牢沙壹伝説:  
龍の感生説話  
九隆(九龍)伝説 →タイ系民族の起源?



永昌郡

越巂郡

犍爲郡

益州郡

牂牁郡

後漢期 (永昌郡の増置)



# 西南開発の目的

- 前漢後半期～後漢：漢人移民の増加  
→雲南東北部（犍為郡，晋の朱提郡）は  
当時西南の先進地域
- 対外交易路（蜀身毒道・夜郎道）  
→鉍産資源（銅・錫）目当て （史料2.5, 2.6）  
（四川地方の後背地としての犍為郡南部の開発）
- 当時の四川ー雲南メインルートは 犍為郡経由



# 前漢後期～後漢時代の西南

- 前漢武帝の郡県設置以降, 大規模な移民・屯田
- 「漢乃募徙死罪及姦豪実之。」(史料2.10 晋寧郡)
- 「徙南越相呂嘉子孫宗族実之, 因名不韋, 以彰其先人惡。」(史料2.10 永昌郡)
- 典型的な「移(徙)民実辺」



# 「屯田」と移民の実情

- 「屯田」  
軍隊組織をもって辺境の移民・開拓  
「平時は農耕・軍事訓練／有事に出兵」
- 実際には「屯田守之，費不可勝量。」(史料2.7)  
たいへんな費用をかけて屯田を行わなければ，  
辺境の郡県を維持することができない



# 郡県の廃止論も

- 「即以為不毛之地，亡用之民，聖王不以勞中国，**宜罷郡，放棄其民，絕其王侯勿復通。**」(史料2.7)
  - 前漢末(BC27)の議論
  
- 「宜罷兵屯田，明設購賞。」(史料2.8)
  - 王莽時(AD16)派兵よりは屯田のほうがマシ？



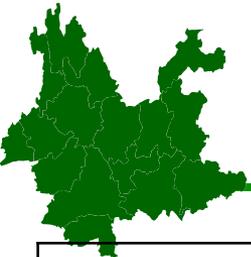
# 兵士として送り込まれた漢人

- 西南民族の「反乱」を鎮圧するため内地で徴発され、西南に派遣された兵士  
→しばしば「疾疫死者什七」「死者数万」  
などと大きな被害を出す(史料2.9)
- これら「損害」の全てが死亡したとは考えにくく、多くは西南地区で流散して戻らず、そのままこの地に定着したものである



# 両漢期の西南に対する出兵(1)

紀年	出兵之地	将領	兵数	戦争之地
元封二 (前109)	三輔罪人 巴蜀士卒	郭昌 衛広	数万人	滇池区域
元封六 (前105)	京師亡命	郭昌		洱海区域
始元元 (前86)	募吏民 犍爲蜀郡奔命	呂破胡	万余人	益州郡・ 牂牁郡
始元四 (前83)	南陽士卒	田広明 杜延年		
天鳳元 (14)	巴蜀犍爲吏卒	馮茂		益州郡



# 両漢期の西南に対する出兵(2)

紀年	出兵之地	将領	兵数	戦争之地
天鳳三 (16)		馮茂		句町
天鳳六 (19)	天水隴西騎士 広漢巴蜀吏民	廉丹 史熊	兵十万人 運輸二十万人	益州郡
天鳳六 (19)		郭興 李曄		若豆部落
建武十九 (43)	広漢犍爲人・ 朱提夷	劉尚	一万三千人	益州郡 豆蚕部
永平元 (58)	益州(蜀)			姑復



# 両漢期の西南に対する出兵(3)

紀年	出兵之地	将領	兵数	戦争之地
建初二 (77)	越嶲益州永昌 夷漢		九千人	永昌郡
元初六 (119)	益州(蜀)	楊竦		永昌郡・ 益州郡
延熹四 (161)	益州(蜀)			朱提区域
熹平五 (176)	巴郡板楯兵	李顥 龐芝		益州郡

(方国瑜 《汉晋时期在云南的汉族移民》 1957 による)



# 漢人人口の定着と「南中大姓」の出現

- 後漢後期頃にはこの地域に定着する漢族人口が増加
- しだいに有力者(軍指揮官／地方官出身)に世襲的に属する「部曲」となる(半隷属農民・私兵集団)



- 「南中大姓」の形成  
(南中=魏晉時代の雲南・貴州西部・四川南部の呼称)



# 現地民族の社会統合

- 現地民族(非漢族)の中にも「夷帥」「叟帥」「渠帥」などと呼ばれる有力者が出現



「大姓」に匹敵する勢力

- 後漢時代:郡太守(長官)は大姓を通じて漢族移民を統治,夷帥を通じて「夷人」を統治(大姓に夷帥をコントロールさせることも)



# 三国呉・蜀と南中

- 三国時代：呉と蜀が南中における覇権を争う
  - 呉：蜀に対する**包囲作戦**の一環として
  - 蜀：呉に対する牽制（上流をおさえる）だけでなく、**北伐のための後方兵站基地**として  
（成都盆地だけで北伐を支えるのは不可能）



# 蜀の南中経営(初期)

- 初期には平和的に支配を浸透させようとする
- 鄧方・李恢らを庾降都督として派遣(最高責任者)
- 南中は当時**すでに大姓・夷帥の割拠状態**  
→招撫の効果あがらず  
↑ ↓
- 大姓・夷帥は**蜀への牽制として呉と連絡**
- 雍闓(益州郡)・孟獲(建寧郡)・  
高定(高定元)(越巂郡)・朱褒(朱提郡・牂牁太守)ら

# 成都の武侯祠



武侯祠

武侯祠

一番晤對古今情

對足千秋

三顧

三顧頻煩天下計



# 武侯祠の諸葛亮像

諸葛孔明  
室



8 13  
ZHUO LIANG (181-234)

These statues of the figures of Zhuo Liang and Zhuge Liang were  
erected during the period of the Three Kingdoms.  
The figure of Zhuo Liang is the one who was the  
emperor's advisor and the one who was the  
emperor's advisor. The figure of Zhuge Liang is the one  
who was the emperor's advisor and the one who was the  
emperor's advisor.



# 諸葛亮の南征

## 223 劉備死す

- 蜀の都護李厳が雍闓を諭す書状を送る  
雍闓の返答：「蓋し聞く、天に二日なし、土に二主なし、今天下鼎立し、正朔三あり、是れを以て遠人惶惑し、歸するところを知らず。」

## 225 (建興3年) 春 諸葛亮の南征

- 成都から岷江を下り、犍道 (宜賓) で全軍を三分

# 诸葛亮南中用兵

(225年)

## 图例

- ▶ 诸葛亮用兵路线
- ▶ 李恢进军路线
- ▶ 马忠进军路线
- ◡— 吕凯布防线
- //// 主要作战地区
- ◡— 高定布防线
- - - - 高定败退路线
- 雍 闾 叛乱者
- 云南 新置郡、新改名郡

六百万分之一

0 60 120公里

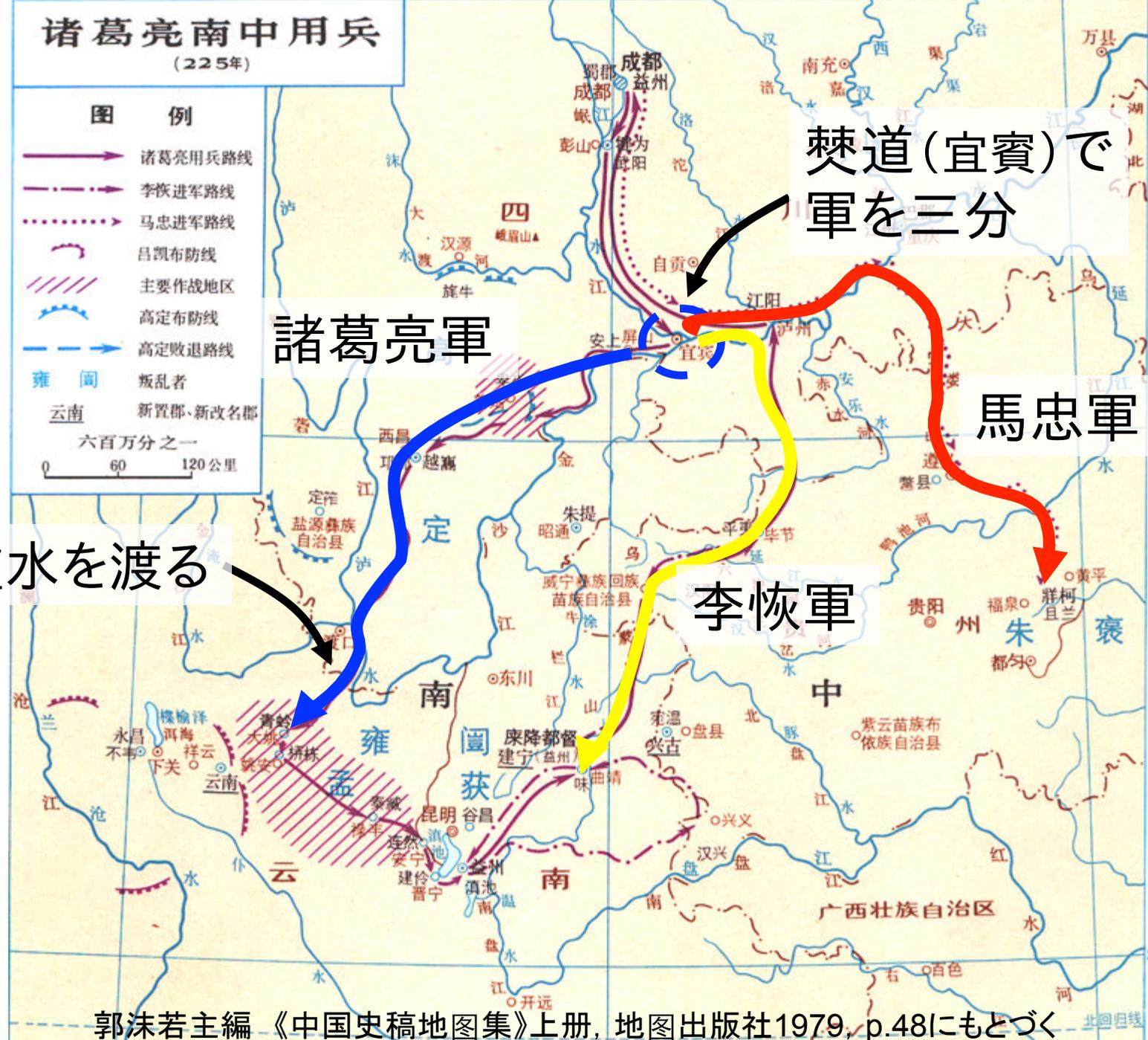
焚道(宜賓)で  
軍を三分

諸葛亮軍

馬忠軍

李恢軍

瀘水を渡る





# 「五月瀘水を渡る」

- 雍闓は越嶲へ救援に向かうが、高定の部下と紛争を起こして殺され、孟獲が部衆を率いる
- 諸葛亮は高定を破ったあと瀘水(金沙江)を渡り益州郡へ

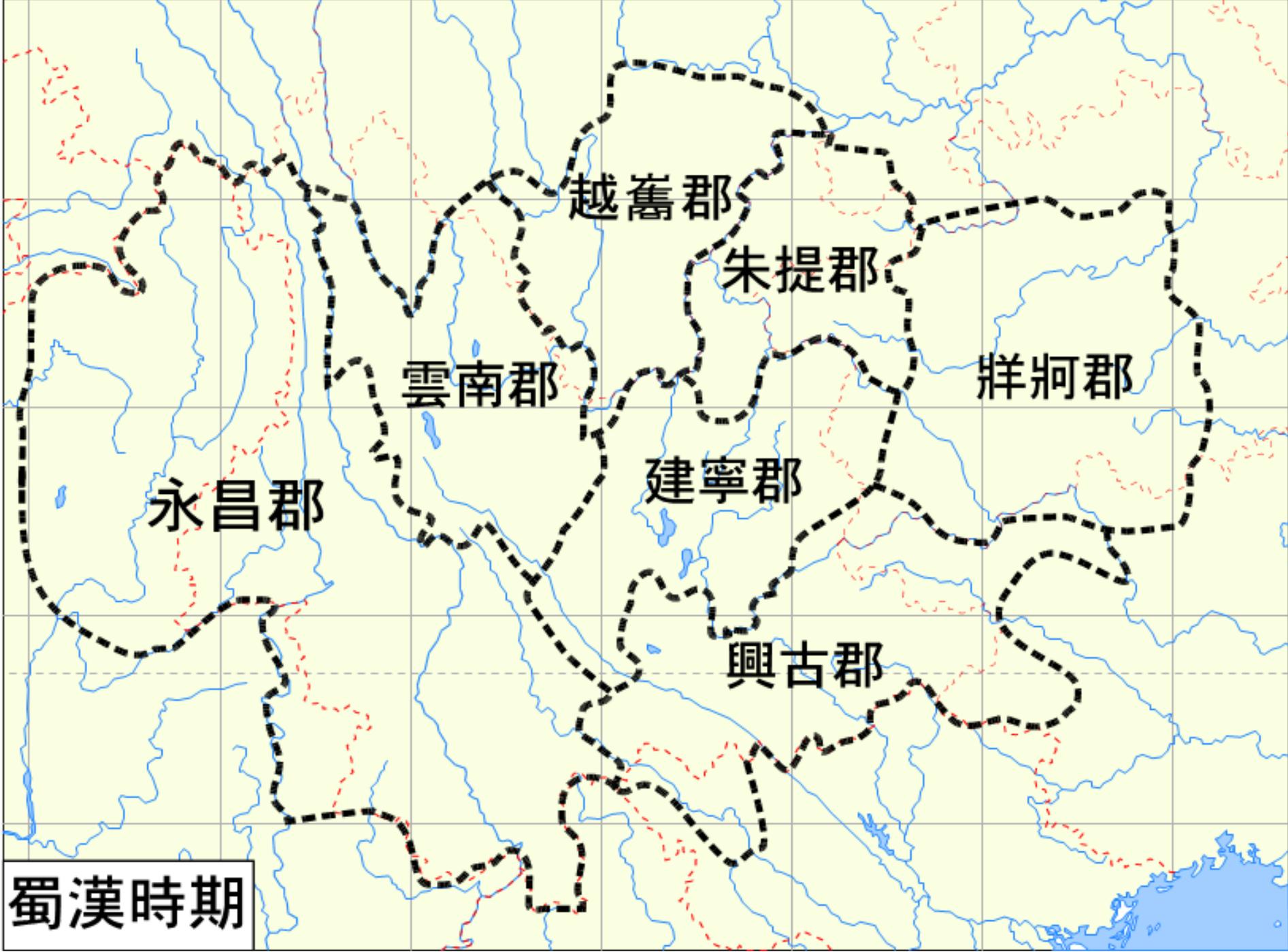
→ 孟獲を捕える「七擒七縱」

- 同年秋 南中四郡(越嶲・永昌・益州・牂牁)の平定完了
- 雲南郡・興古郡を新設



## 「七擒七縱」孟獲

- 夏五月，亮 瀘を渡り，進んで益州を征す。孟獲を生虜し，軍中に置く。問いて曰く「我が軍如何？」と。獲対えて曰く「相い知らざるを恨む，公勝ち易きのみ」と。亮以えらく，方に務めは北に在り。而して南中は叛乱を好む。宜しく其の詐を窮むべしと。乃ち獲を赦し，還らしむ。軍を合せて更に戦い，凡そ七たび虜にして七たび赦す。獲等心服し，夷漢も亦た善に反るを思う。亮 復た獲に問う。獲対えて曰く「明公，天威なり。辺民長く悪を為さず」と。



蜀漢時期

永昌郡

雲南郡

越巂郡

朱提郡

建寧郡

興古郡

牂牁郡



# 蜀の南中経営(平定後)

- 大姓とその軍事力を蜀漢政権に取り込む
  - 南中の「勁卒青羌」万余家を蜀に移し「五部」を編成, 「飛軍」と呼ばれ蜀の軍事力の一つに
  - 大姓の**主要人物を政権中央に取り込む**
  - 現地民族の「羸弱」な者は大姓に部曲として配給
  - 屯田を開き, 牛耕を教える



- 「夷漢」の混住・同化が促進され,  
南北朝時代に大姓が割拠する状況を生む



# 『華陽國志』

- 十二卷, 東晋・常璩撰, 永和11年(355)頃成書
- 「華陽」= 巴(重慶)・蜀(四川)・漢中(陝西南部)の地誌
- 常璩は字道将, 蜀郡江原(成都西郊の崇州市)の人
- 李雄・李特が蜀にたてた成漢政権に仕える
- 347 晋の桓温が成漢を攻めた際に李勢に投降を勧め, 桓温の参軍となって建康へ
- 中国西南に関する最古の「地方志」



# 『華陽國志』の内容

- 卷一 巴志
- 卷二 漢中志
- 卷三 蜀志
- 卷四 南中志
- 卷五 公孫述、劉二牧志
- 卷六 劉先主志
- 卷七 劉後主志
- 卷八 大同志
- 卷九 李特、雄、期、壽、勢志
- 卷十 先賢士女總贊
- 卷十一 後賢志
- 卷十二 序志並士女目錄



# 『華陽国志』の内容

- 巻一～巻四 各地区の沿革・地理志
  - 巻五～巻九 地方政権の編年史
  - 巻十～巻十二 人物伝
- 
- 最も史料価値が高いとされるのは巻一～巻四の部分
  - 歴史・地理・人物を結合した内容・体裁は後代の地理書・地方志にも直接・間接に影響を与えたといわれる



# 『華陽国志』のテキスト

---

- 刘琳《华阳国志校注》(1984, 修訂版2007)
- 任乃強《華陽國志校補圖注》(1987)
- 中林史朗『華陽国志』(抄訳)(1995)
- 船木勝馬・飯塚勝重・谷口房男ほか  
「華陽国志訳注稿」  
『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所年報』  
(1974~1998)



# 『華陽国志』に関する詳しい解題

---

- 中林史朗「『華陽国志』に関する諸問題」  
『大東文化大学人文科学研究所所報』2(1995)

<http://www.ic.daito.ac.jp/~oukodou/tyosaku/kayoukokusi.html>